


 ふるさとに恵みを与える川「あいばがわ藍場川」

山口県萩市は、毛利輝元が周防・長門の2国の首都として居を移して以来、36万石の城下町として栄え、明治維新発祥の地としてひろく知られている町である。

藍場川は農業用水路として、川舟の通行路として、また城下町的生活用水路として1717年に開削された。現在でも川沿いの屋敷の庭には川水を取り入れた池も多く、野菜などを洗うための足場も設けられている。

萩市では、鯉の放流、川をいかした修景事業、サイクリングコースの整備などを行っている。また地元の「藍場川を愛する会」では、一斉清掃やゴミの不法投棄防止のための巡視を行い、美しい清流の維持に努めている。



所在地 山口県萩市川島

